

T O P I C S

自分たちで作る「身の丈IoT」

—居場所管理システムを例に—

電子情報部 奥谷悠典(おくたに ゆうすけ)

y-okutani@irii.jp

専門：ソフトウェア、人工知能

一言：ソフトウェア技術で皆様の問題を
解決します。

近年、業務効率化のためIoTシステムの活用に関心が高まっています。しかし導入を検討してみると、想定以上の費用が必要になるケースがあります。この一因として、導入したい企業にとって少々過剰な機能が含まれることが挙げられます。そこで、必要な機能のみを取り入れて安価にシステムを自作する「身の丈IoT」の活用に取り組む企業が増えています。

工業試験場でも、身の丈IoTの活用に取り組んでおり、図のとおり職員の居場所を簡単に管理できる居場所管理システムを開発し、評価・改良を行っています。居場所管理システムは、安価な小型コンピュータ「ラズベリーパイ」とカードリーダーのみで構成されています。各部屋にラ

ズベリーパイとカードリーダーを設置し、職員がカードをタッチすることで入室したという情報がサーバへ送信されて、WEB画面へ反映されます。なお、このサーバもラズベリーパイで構築されています。このように安価なシステムで、場内のどのパソコンからでもWEB画面から職員の居場所が一目で分かるようになり、来客時の呼び出しや電話の取次ぎがスムーズに行えるようになりました。

工業試験場では、身の丈IoTの開発に対して様々な技術支援を行っています。自社でも安価でIoTシステムを開発したい、あるいは居場所管理システムの技術を紹介してほしいなど、身の丈IoTに関心がありましたらぜひご相談下さい。

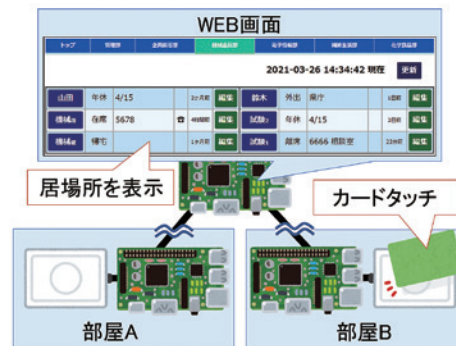


図 居場所管理システムの構成図